
資料 2 : 報告資料

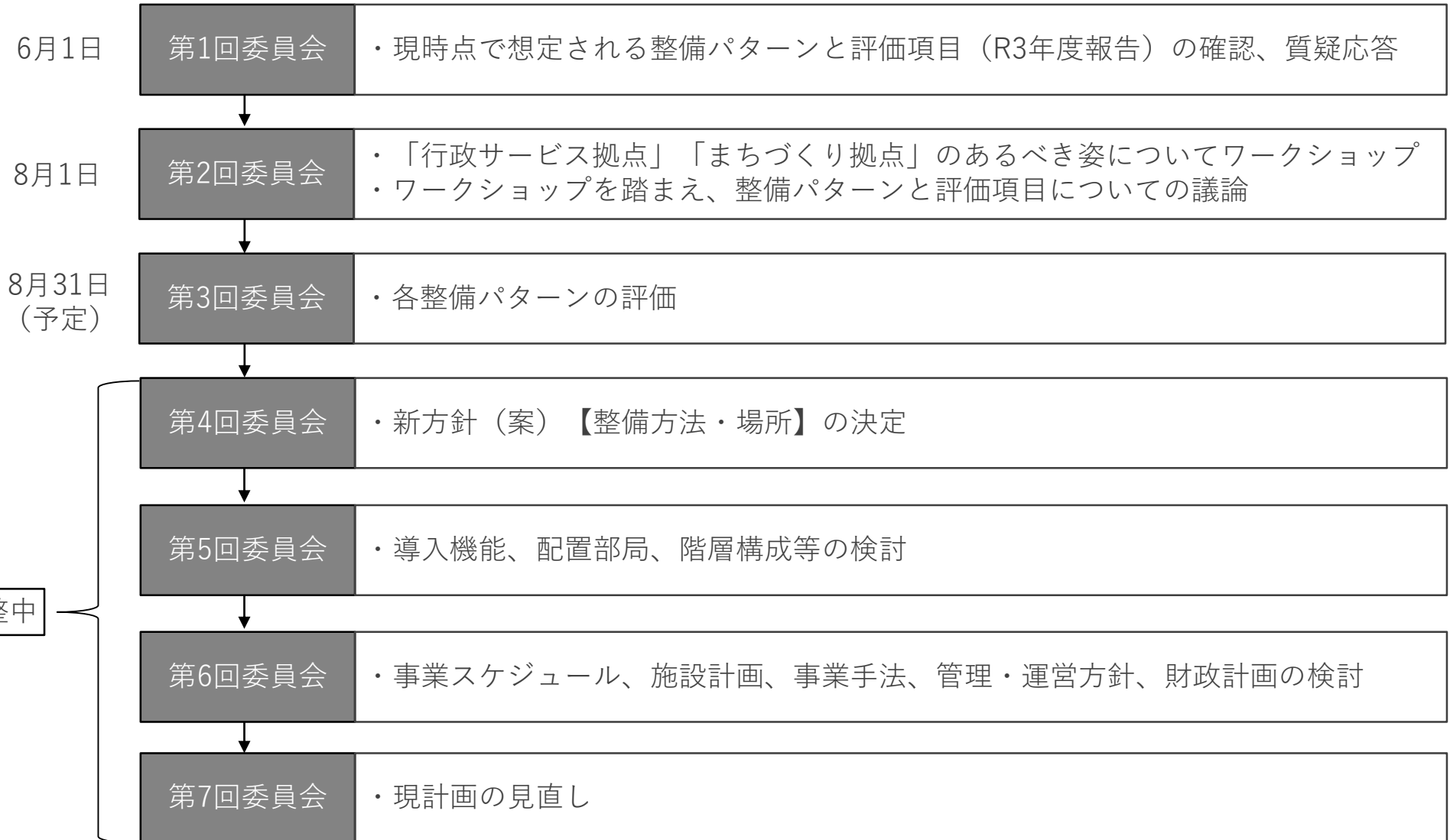
3 (1) 前回のまとめ

第1回委員会意見の整理

検討の前提条件（職員配置、機能分散）、具体的な規模・場所・コスト、庁舎の機能・役割、評価・選定の考え方について意見があった。

分類	意見の概要	備考
職員配置	□ 新清水庁舎における入居部門は？機能配置は？ (小豆川委員、堀川委員、加藤委員)	
機能分散	□ 街の中に分散的に市役所機能・区役所機能を展開していく案も検討しては。 (加藤委員) □ 市として現状の行政サービスの分散化は可能と考えるのか、はじめに検討が必要。 (黒瀬委員)	
規模・場所	□ 現庁舎の機能をどの程度維持しながら、必要な床面積を算出した時に東口公園の残地面積に建設可能か。 (石垣委員、田宮委員) □ 場所の決定には費用対効果やコンパクトな庁舎を考える必要がある。 (伊東委員) □ 仮置きでもいいので規模が定まらないと、位置の議論はできない。 (加藤委員)	
コスト	□ 現地改修の場合も、フルスペックで対応すると大きなコストがかかるため、整備水準の明確化(絶対に壊れない/最低限の機能を維持)が必要。 (黒瀬委員)	
行政サービス	□ 市民は何の届出のために庁舎に来ているのか。具体的な内容によって検討に影響する(窓口機能のデジタル化/相談機能の拡充/その他機能の付加)。 (牛場委員) □ 市民向け窓口業務の数など業務分析の上で、機能配置について検討が必要。 (小豆川委員、堀川委員) □ 各地域の生涯学習交流館を有効活用できないか。 (堀川委員、牛場委員)	
防災拠点	□ 新清水庁舎における災害時の防災拠点とはどういった位置づけか？ (黒瀬委員、恒川委員長)	
まちづくり方針	□ 庁舎の整備場所での連携や役割分担(例:コミュニティ活性化のための機能)をどのように考えるか。 (牛場委員) □ 清水は現在の人口規模に対して中心市街地の定義が広い。位置決定にあたっては街の考え方(南北に広く捉える/駅周辺に集約する)も重要。 (黒瀬委員)	
その他 (評価の 視点など)	□ 特に高齢者の方や障害のある方が親しみやすく行きやすい場所を観点に、お金の問題だけでなく、気持ちの問題も入れてほしい。 (関委員) □ 市民アンケート結果を重視しては。 (田宮委員) □ 各案で特徴とすべきコンセプトを明確化し、ハードとソフトの違いやコスト等の問題を比較対照する。また、現状課題の認識だけでなく、今後の庁舎が目指す姿についてコンセンサスを図ることも重要。 (小豆川委員)	

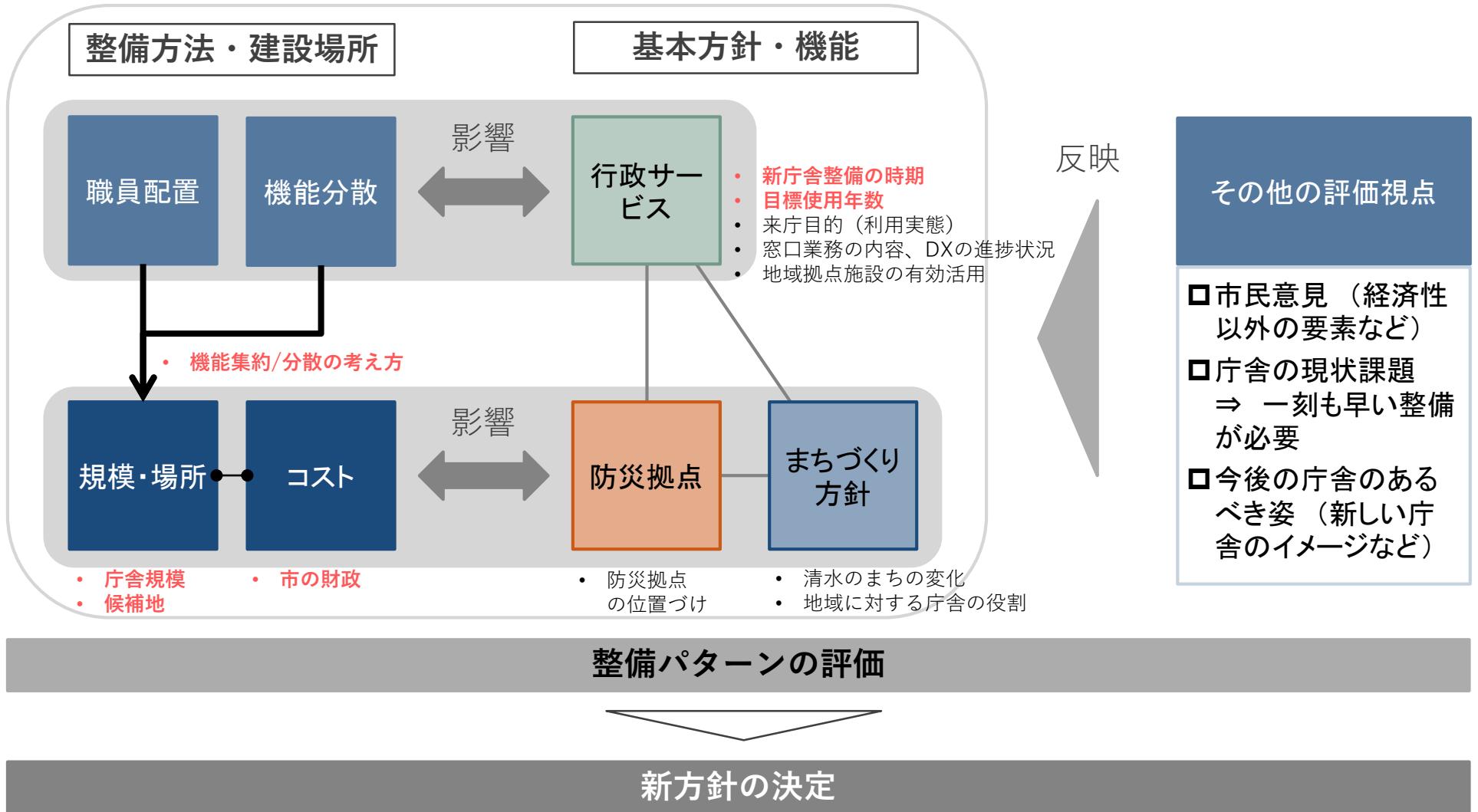
清水庁舎整備検討委員会の検討スケジュール（R4.8.1時点）



※現時点での想定する検討スケジュールであり、今後、委員のみなさまの意見等により変更する可能性があります。

検討項目間の相関図

- 検討項目間の関係に注意し、特に影響する市の方針を明確化の上で、清水庁舎のあるべき姿の議論を行う。



【参考】機能集約・分散の考え方について

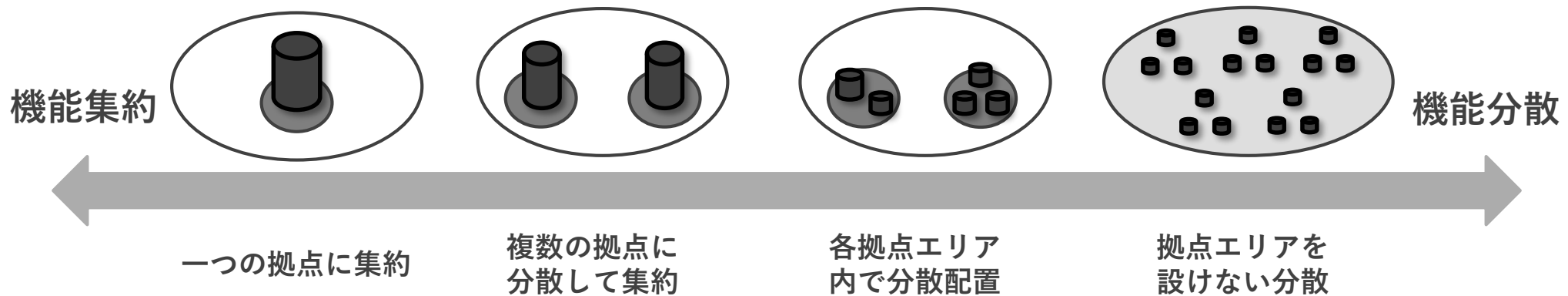
● 機能集約のメリット【事例：横浜市など】

- 施設管理の効率化、維持管理費削減
- 行政サービスの効率化・利便性向上（庁舎間移動等の削減）
- 部局間の連携・交流促進

● 機能分散のメリット【事例：松本市(分散型市役所 検討中)、長岡市(まちなか市役所：中心市街地内分散)】

- 公有財産の有効活用、施設整備費削減
- 分散先地域の活性化（人口・人流の増加）
- 機能の最適配置（必要とされる場所に必要な機能を置く）、利用者のアクセス性向上
- セキュリティ、非常時のリスク分散

※下記イメージのとおり、集約・分散のあり方は地域事情に応じて様々なパターンが想定される。



<集約・分散の概念イメージ>